

中濃農林事務所の普及活動状況 令和6年9月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ぎふ清流GAP評価制度 更新審査の実施

9月11日、令和3年に「ぎふ清流GAP」の農場評価を受けた関市内の土地利用型の生産者が、更新のための農場評価を受審し、農業普及課も同席した。

今年度から「ぎふ清流GAP評価制度」が見直され、国際水準GAPガイドラインに準拠した制度での審査が実施された。

これまで、農業普及課において農業生産活動の改善支援等を行ってきたが、今回の新たな視点での評価により、更なる気づきにつながった。

今後、今回評価を受けた生産者の改善事例等を他の生産者へ紹介しながら、GAPの取組みをさらに推進していく。

(地域支援係)



【審査の様子】

■夏秋なす JAめぐみの就農塾

9月5日に、関市小瀬の夏秋なす圃場にて、第5回就農塾夏秋なすコースが開催され、3名の受講生が出席した。

今回は、なすの摘芯、摘葉、整枝剪定について研修が行われた。JAめぐみの、農業普及課が講師となり、摘芯作業のポイントを説明しながら作業を行った。また、夏秋なすの選果場視察も行い、選果場のしくみや選果基準等について学んだ。

農業普及課では、今後も就農塾の支援を継続し、受講生のスムーズな就農を支援していく。

(地域支援係)



【選果場視察の様子】

■新規就農者支援 伴走支援の実施

9月13日、今年度から関市内で就農した生産者を訪問し、農作業の進捗状況や栽培技術等での困り事がないかなど、聞き取りを行った。

当生産者は、JAめぐみの実証ほ場で1年間学び、今年4月から、夏秋なすといちごで新規就農した。

作業は非常に丁寧で、夏秋なすの栽培管理状況は素晴らしく、よいなすの出荷を続けていたが、いちごの育苗や定植への準備作業が始まると「かけもち」の難しさを痛感していた。

農業普及課では、課内でも各品目の担当間での情報共有を進めるとともに、新規就農者が安心して営農が継続できるようチーム活動を通して伴走支援を展開していく。

(地域支援係)



【指導・助言の実施】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■大豆 開花

中濃農林事務所管内では、大豆「フクユタカ」が約150ha作付けされており、8月下旬に開花期を迎えた。大豆開花後は、定期的に降水を観測したため、花落ちは見られず概ね順調に生育している。

大豆ほ場内でカメムシ類が散見されたことから、農業普及課では防除についての情報提供を行い、生産者らはほ場の状況を確認し、ハスモンヨトウや紫斑病の防除を行っている。

農業普及課では、今後も引き続き生育状況等を確認しながら、高収量・高品質な大豆生産支援を行っている。

(地域支援係)



【開花期の大豆】

■さつまいも コガネムシ飛来数調査

6月10日に、農業経営課の支援を受けて、美濃市のさつまいもほ場にコガネムシのフェロモントラップ（ヒメコガネ、マメコガネ、ドウガネブイブイ）を設置した。成虫の飛来状況を確認することで、防除適期を判断することを目的とし、経時的に捕獲頭数を確認した。

9月の飛来数調査では、ヒメコガネ3頭、マメコガネ0頭、ドウガネブイブイ3頭の飛来を確認した。

農業普及課では、今後掘り取り調査を行い、コガネムシ類幼虫の生息数と齢期、幼虫による被害程度を調査し、適期防除に活用していく。

(地域支援係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 花芽検鏡の実施

中濃いちご生産組合では、収穫時期の安定を図るため、9月より定植苗の花芽検鏡を実施している。

農業普及課では、実体顕微鏡を用いて、組合員より持ち込まれたいちご苗の花芽の確認を行っているが、今年も気温が高めで推移しているため、9月18日までの結果をみる限り花芽の分化は遅れ気味となっている。9月下旬までには花芽分化が進むと予想しているが、花芽分化を促すため、風通しのよく涼しい環境作りや葉柄中硝酸態窒素濃度を低めに維持することを指導している。

(地域支援係)



【花芽検鏡調査】